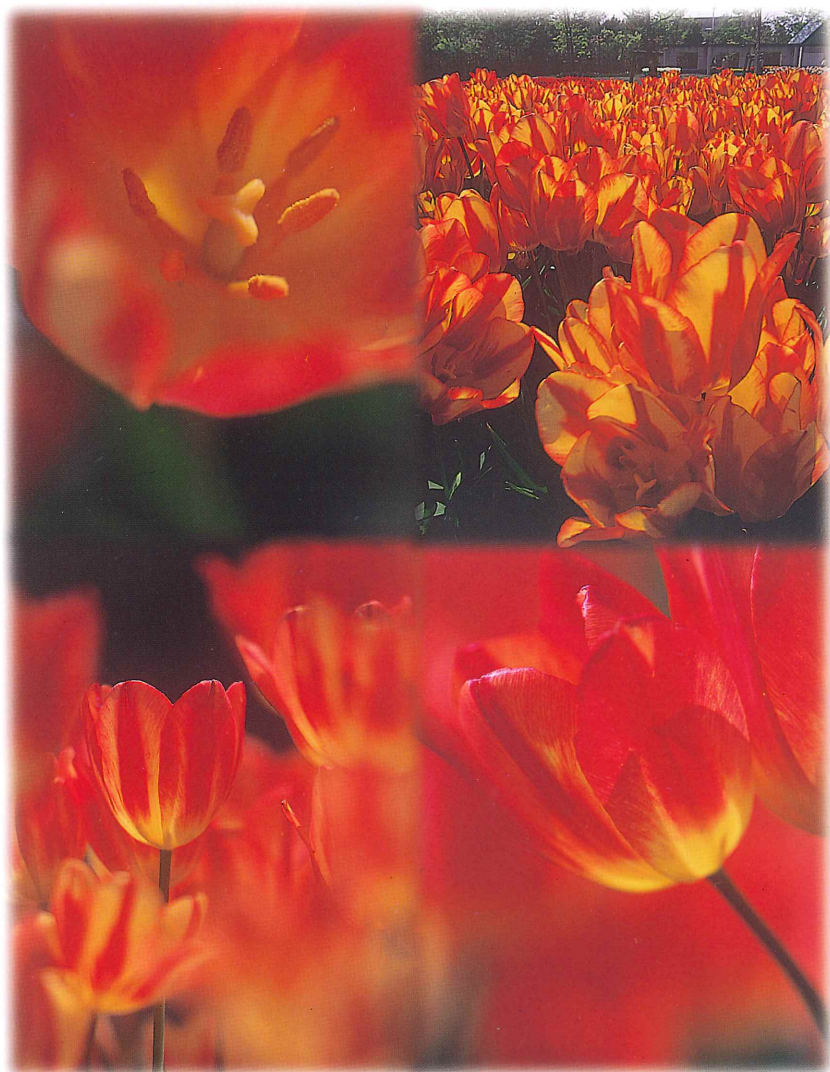


チエーリツプ 四季だより



▲‘カラスペクタクル’（一重晩咲き）
技咲き。咲き進むにつれて色が徐々に変化する。

「環境市民とまちづくり」

東京農業大学学長（農学博士）

進士 五十八

去る、三月二十二日午後、チューリップ四季彩館ホールにおいて、東京農業大学学長の進士五十八先生による記念講演が行われました。聴講者は二百名を超え、約二時間にわたり行われた講演の様子を一部ご紹介します。

東京農業大学の進士でございます。

本日は「ふるさと」の大切さと三つの共生についてお話をしたいと思います。私は、富山に何度も来ていますが、砺波平野の美しさは天下一品だと思います。天下一品といえば、日本国内だけではなく、ドイツなども村が大変美しいですね。ドイツでは、わが村は美しくという運動があります。自然愛護、野鳥愛護、ふるさと愛護の三つの国民的愛護運動が昔からドイツ人にはあったのです。「自分のふるさとを、まさに自分の村であり、自分たちの村を心底ふるさと思えなければならぬ」、ふるさとと美しさは、自分たちのプライドである。「これは、ドイツ人に限ったことではありません。イギリス人達もプライドオブ・ブレイスという言葉を誇ります。誇り、場所



▲砺波市内の散居村を見学（H13）

についての誇り、ふるさとについての誇り、私の町・私の村は素晴らしいんだと思う気持ち。ドイツ人はハイマートシュッツ運動をやってきました。自然を愛する、鳥を愛する、ふるさとを愛するという目標を掲げてきたのです。そういう国柄なので、農村一つ一つとても美しいのです。

砺波のように、人口五、六万サイズがふるさとづくりに最適規模だと思います。ドイツには、ミュンヘン、ハンブルグ、フランクフルトといった少し大きな都市もありますが、そうは多くありません。むしろ小さい方がいい町があります。環境首都のエアランゲンやフライブルクなどは美しく静かでない町なので、それだけで訪れる人がいます。ゆつたりと訪れ、そしてそれぞれの町並や村並を歩いて楽しむのです。

そういった他から来た人に、恥ずかしくないように家の周りを整然と飾るのが飾るというよりは整える、ここが大事な点です。「飾る」と「整える」とは違うのです。「飾る」というのは、元々悪いものを恰好よく見せるという下心があるのです。その為に派手目のお化粧をしすぎる場合があります。そうではなく、本当に自分らしく整える、身住まいを整えるというのが、「わが村は美しく運動です」。

私は、自然と人工、都市と農村の関係についていつも考えています。人間はビルを人工的に建てることでマンパワーをアピールするのですが、それが行き過ぎて、人工化巨大化をど

んどん推めれば推めるほど、自然は相対的に小さくなっていきます。人工と自然のバランスが大事です。分相応程々、腹八分等昔の人々は上手く言いました。飽食の現代社会とは違うように思います。二十世紀はそれを目指してきた時代であったようです。どんどん進歩してきたように思えますが、新世紀を迎えた今日、本当の人間らしい生き方とは何かと考える時代になってきたと思います。

砺波平野は散居村で有名です。雄大な田園の中に屋敷林（カイニヨ）が点在しています。贅沢なぐらいます。自然と人為の絶妙なバランスです。大切に守りたいものです。

人間には、程の良い密度があります。四畳半に二十人は多すぎますし、百畳に二人は寂しすぎます。ちょうどどの空間というものがあつたのです。それが、居心地の良い家であり、ふるさとです。

散居村のカイニヨは、椅子の背もたれのようなもの、すなわち心の拠り所となるものです。自分の世界を囲んできつと安心を作るといふことです。これこそ我が家です、私の空間ということですね。

街づくりとは何かというと、ここが自分たちの家、ここが自分たちの町ということを確認する、それで安心出来る事です。

皆さんは花の街づくりをめざして花をいっぱい植えるためがんばってこられました。花にはいろいろな効用があります。鮮やかできれいな目立つ、絵になる。風景でいうとこれを点景といいます。しかし、花の点景が生きていくためには、地つまり背景が安定していることが大切です。風景は点景と背景のバランスが大事です。図と地のバランスが大切なのです。砺波の風景を考えてみると、遠くに

立山が見え、前方に海が開き、田園地帯に散居村が点在する、しかも、それは立派な木々で出来ているのです。大きな木とかわいらしい花の両方の意味を意識すべきです。



▲H13年度 全国花のまちづくりコンクール 審査員として来市

砺波の屋敷林の風景は、一本一本の木が年輪を増やすように、歴史の重みを教えてくれるのです。花は、一瞬の美しさですが、樹木は歴史を感じさせる、時間的座標軸だと思います。草花は空間的広がりや生気を感じさせます。人が環境を造るのですが、環境が人を造ると言うことも非常に大事です。どんなふるさとで、子どもや孫達が育つのか、育てていくのかを考えることはとても大事です。子育ての道具には木も花も草も、砺波の風土性もいろいろなくてははいけません。木や花や草や動物達とつきあひ、その一方で歴史と深くつきあひていくのです。

大都市では、工業が主人公になり、経済も発展し、大いに便利になりましたが、一方で地球環境問題や、都会では殺人・暴力などの殺伐とした事件もふえ、おかしくなってきた。その理由は、超過密問題にあります。ですから、程々の密度で、本当にいい環境で、歴史的な時間軸と空間的な座標軸がある砺波のような地方都市が出番となるのです。

五、六万が小さいと考え、人口も十万人にしようなどと考えなくて良いのです。程々の環境でどう生きるかが、二十一世紀に求められていると思います。

ます。私は、これを「スローなまちづくり」とよんでいます。

立山があつて、富山の平野があるというの「背山」であり、前方は日本海があるので「臨水」、だから「背山臨水の地」であるといえます。庄川や神通川が流れていて、幾筋もの用水が流れていて、屋敷林が連なっていて、地域全体に水と緑の血液が通っていて健康な町と思います。

私は、二十世紀は工業と都市の時代でしたが、二十一世紀は農村と農業の時代でなければならないと思っています。ただ、農業はあまり儲からないということがあります。私はそんなに儲からなくて結構と考えています。工業と違い、そのかわり、別の豊かさを沢山手にできているのですから。

農業は、太陽の光を受け光合成作用で植物が成長し作物を作ります。太陽の恵を受けて物を作るといった自然の仕事、自然の仕業というのは、生産量を何十倍にも増やすことはできないのです。もしも工業並みに生産性を上げようすると、施設化、多投入など工業化するしかありません。それでも生産性では「工」に敗けてしまう。

皆さんは花や緑を愛し、花を育てていますが、更にもう一步、環境を視野に入れて進んで欲しいと思います。私はその生き方を「環境市民」と呼びます。

環境市民というのは、花作りの延長でも構いません。すべて市民は第五種兼業になつて欲しいと考えます。どういうことかというガーデニングをはじめ、花がきれいなと言っている人達が、土のことをもう少し考えるようになる、野菜のことを考えるようになる、環境保全型農業のことを考えるようになるという風に、農や安全な食についても考えて欲しいものです。少し高くてもオーガニック野菜を買うという様に賢い消費者、グリーンコンシューマーに変わってもらいたいです。

このように何らかの方法で農を支援する人達を私は「第五種兼業農家」と呼びたいと思います。

こんなに緑豊かな環境が富山にはあるのですから、富山育ちの子どもなればはの付加価値(個性)を付けなければ。農業、山、川体験といった環境教育が一番ではないかと思ひます。自然と無縁の教室中心の教育が主流になり、その教育を受けた人達が先生となつてしまつていくのが現状です。現代の子ども達は全く何も知らないし体験もしていないのです。テレビで情報を得て、全部わかつた氣になつています。自分の目で見て、自分で体験しないと本當のことが分からない。

これからの社会を考えていく上で、自然共生、環境共生、地域共生という三つを考えなければなりません。

一つは、自然共生です。生き物との共生です。人間自身も生き物だから、後ろに木(壁)がある所に落ち着きます。人間を含めた生き物は、どうやって生きるか、自分たちの生命を守るか、子孫を増やすかを考えています。そういう生き物にとつての環境がどうあるべきか考えると、どんな環境がいいか、自ずとわかつてきます。人間は、天然の物(木綿やウールのこと、化繊ではないもの)を着て、天然の物で出来た家に住むことで心の底からホッとするのです。

大切なことは豊かな時間を生きたこと、充実した時間をいかに生きるかということなのです。

生物の中には生物の時計があります。バイオリズムという言葉もあります。生物が本来持つていた時計に合わせて生きていけば良いのではないかと思ひます。

二つ目は環境共生です。これは、ゴミ、資源、エネルギーとの共生です。

環境を考えるとときには、農(農村、農業、農民)の発想が大事だと思ひます。確かに、農業は決して儲かるものでは

ないけれども、太陽の恵を受けて育つ物、それを作る環境、それを作ること、人間の心を和ませると言うこと、また、それによって、物質循環から子ども達の情操教育まで行つてくれる多面的機能もあるのです。だから農業は素晴らしいのです。

今までのものの見方は、あまりにも現金になる部分だけを見過ぎていました。自分たちのやつていくことを、自分自身のためにも、家族のためにも、ご近所や地域のためにも、楽しみながらつなげていくといったエコライフスタイルといわれるものがあります。価値観、ライフスタイルを変えれば、本當に豊かな生活は手に入るのです。

三つめの地域共生というのは都市と農村の関係、農家と市民の関係、先進国と発展途上国との関係です。共生というのはどちらかがいばることなく、共に助け合つて生きるということです。自分のすばらしさをお互いに相手に与え合つて、両方が生きていくと言うことです。

「農」から学ぶべきライフスタイル、つまり、自然のリズムに合わせながら、人間のバイオリズムに合わせながら、みんな団結し、連帯して何かを実現する。スローな生き方がまさにこれからの主体になるのです。



今後、砺波ですばらしいまちづくりが環境市民の手で進められることを期待しております。今日は、ご静聴ありがとうございました。

【略歴】

しんじ いそや



一九四四年京都生まれ、東京農大卒、一九六九年同大助手、一九八七年教授。総研所長、農学部長、地域環境科学部長を経て、一九九九年学長。その間に「田村賞」や「日本造園学会賞」を受賞。

これまでに、(社)日本造園学会会長、政府の観光政策審、国土審、都市計画中央審、河川審、道路審、北海道開発審議会の専門委員や特別委員、東京芸術大学大学院、女子美術大学大学院の非常勤講師などを歴任。

現在は、(日本農学アカデミー)会員、(社)日本都市計画学会会長、日本野外教育学会副会長、国土交通省社会資本整備審議会委員、環境省アムニティまちづくり自治体選考委員、東京都景観審議会副会長、新宿区・豊島区の景観審議会会長、三鷹区まちづくり委員会委員長、川崎市環境保全審議会委員(NPO法人みどりゆめ理事長、NPO法人)日本園芸福祉普及協会会長、(社)大日本農会理事、(社)ナショナルトラスト協会理事、毎日新聞社持続可能な社会創造委員会委員などを兼ねる。

●著書／アムニティ・デザイン／ほんとうの環境づくり(学芸出版社)、風景デザイン／感性とポランティアのまちづくり(学芸出版社)、ランドスケープを創る人たちが「アロセス・アーキテクチャ」、都市になぜ農地が必要か(実教出版)、都市・緑と農／農が担う地球の将来(東京農大出版会)、日本庭園の特質／様式・空間・景観(東京農大出版会)、環境市民とまちづくり(全三巻)(ぎょうせい)、「農」の時代／スローなまちづくり(学芸出版社)、ほか多数。

◆最新版◆

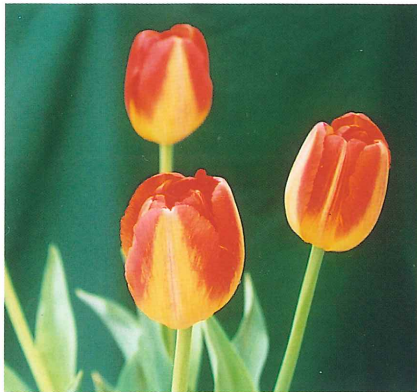
チューリップ いろいろ

四月二十三日から五月五日まで行われた「となみチューリップフェア」の期間中、会場内にて、チューリップ切り花品評会が開催されました。

これは、チューリップの生産技術の交流と品種の豊富さを広く紹介するために、富山県花卉球根農業協同組合が毎年開催しているもので、今年で三十三回を数えます。

今年は、県内の四十七の生産者から、九十六品種二百二十九点が出品されました。最高賞を受賞した「プリンスクラウス」ほか、昨年日本へ導入されたばかりの希少な品種等、会場内で展示された最新の品種をご紹介します。

‘プリンス クラウス’
【Prins Claus】



トライアンフ群。1994年オランダのリストに記載される。‘ジュディス レスター’の枝変わり。高さ55cm。昨年、オランダから日本へ入ったばかり。

‘シナエダキング’
【Synaeda King】

ユリ咲き。1995年オランダのリストに記載される。高さ50cm。2001年にオランダから導入された。



‘アプリコットインプレッション’
【Apricot Impression】

ダーウィン・ハイブリッド群。1996年オランダのリストに記載される。‘ピンクインプレッション’の枝変わり。高さ55cm。昨年、オランダから入ったばかり。



‘カナスタ’
【Canasta】

フリンジ咲き。1999年オランダで登録される。2000年にオランダから導入された。



‘ホーランドチック’
【Holland Chic】

ユリ咲き。2000年オランダで登録される。昨年オランダから入ったばかり。



‘ズレル’
【Zurel】

トライアンフ群。
‘ハンスアンル
ッド’の枝変わ
り。1994年オラ
ンダのリストに
記載される。高
さ55cm。2000
年にオランダか
ら導入された。



‘チャーミングレディ’
【Charming Lady】

八重晩咲き。
1994年オラン
ダのリストに記
載される。‘アン
ジェリケ’の枝
変わり。高さ
45cm。2000年
にオランダから
導入された。



【富山県内の生産者によって作られた最新品種】

‘紫の君’

一重晩咲き。小
林与三郎作出。
富山県花卉球根
農業協同組合に
て1999年度認
定される。‘セン
チナイアー’と
‘ウィリアムコ
ープランド’と
の交配によって
生まれた品種。



‘紅美人’

ダーウィン・ハ
イブリッド群。
浦滝俊雄氏作出。
富山県花卉球根
農業協同組合に
て1997年度認
定される。白雪
姫の突然変異。



『チューリップ・インスピレーションの泉の四〇〇年』

〈パートⅣ〉

(De tulip(オランダ・リッセル市チューリップ博物館発行)より)

第五期 一八〇〇年～一八五〇年

世界で産業が発展しはじめました。鉄道が開発され移動や接続がよりスムーズになり、繁栄がもたらされるようになりました。庭園や鉢植え栽培用にチューリップがさらに求められ、早咲きで色彩に富み変わった花形のチューリップを多品種栽培することが必要となったのでした。様々な珍しい斑入り模様の花がもてはやされる時代は終わろうとしていました。

その上、資本家は数少ない初期のチューリップを大量に要求するようになったのでした。

ハーレムにおけるそれまでの栽培圃場は小規模となっていました。ハーレム、ライデン、アムステルダムでは、砂丘を掘り、その良質の砂を使うことにより、素晴らしい花の作出に成功し、発展していたのでした。

元来、砂丘掘りは、別の目的で行われていました。十八世紀には、特にアムステルダムからヘールヴ

エグ、ハーレム、ライデンにかけて裕福な人々が砂丘の一角を買い、別荘を建てておくことが頻繁に行われました。そうすれば後で儲かるのは明らかでした。砂を売ったり、新しく作られた平地として球根栽培者に球根を自由に作らせることもできます。不動産業者がそれらの世話をしていました。

北部地方やリッセル、ヒレゴム、ベネブロークでは、あちこちでより専門化された球根ビジネスがはじまります。また、ハーレム周辺及び近郊では、花が咲きほこる球根畑へ人々が行楽に来るようになりました。いわゆる、球根ツアーが生まれ、詩人をも感動させたのでした。

しかし、ナポレオン戦争による情勢不安は甚だしく、商業にも悪影響を及ぼしました。

第六期 一八五〇年～一九〇〇年

戦争による影響がいく分弱まって

きました。

ヨーロッパは比較的落ち着きを取り戻し、商業も発展し始めました。健康水準は上がり、チューリップの健康を気にかける人も出てくるようになります。広大な栽培畑はさらに刺激を受けたのでした。

そして、世界中で花栽培が始まります。球根から、確実に少しでも長い期間、より多くの花販売へ、つなげるために、ヨーロッパの大都市周辺に市場向けの菜園が開かれたのでした。

〈次号へつづく〉



国内 News

『栗生明氏 日本芸術院賞受賞』

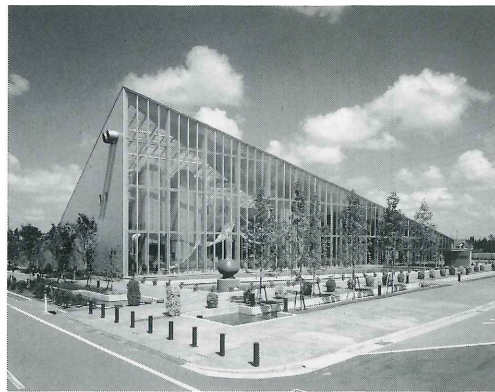
院宝物館鳳翔館」の設計に対して日本芸術院賞を受賞されました。

去る三月末、平成十四年度日本芸術院賞が発表されました。当チューリップ四季彩館を設計した建築家、栗生明氏が「平等

この賞は、国の榮譽機関である日本芸術院が、美術、文芸、音楽、演劇、

舞踊等芸術各分野において、卓越した芸術作品と認められるものを制作した個人、及び芸術の進歩に貢献する顕著な業績があると認められる個人に対して毎年授与するものです。また、日本芸術院賞を受賞した人の中から特に選ばれて恩賜賞が贈られます。日本芸術院賞は、昭和十六年から戦中、戦後の一時期を除いて毎年授与されており、今年で五十九回を数えます。

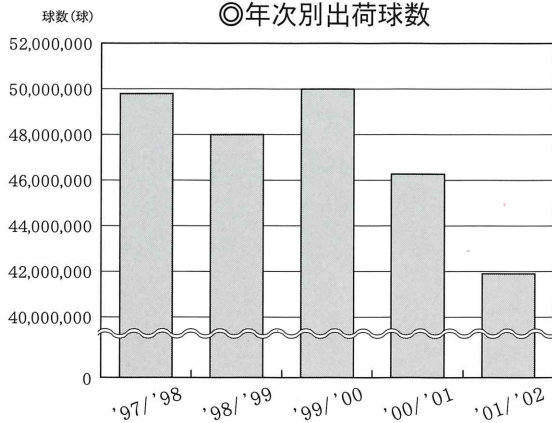
栗生氏の設計作品には、ユニットピア篠山のカーニバルショーケース、井上誠昌堂金沢オフィス、植村直己冒険館、岡崎市美術館、パトリ+清里フォトアートミュージアム他、多数あります。



▲四季彩館内部

チューリップ四季彩館（外観）▶

◎年次別出荷球数

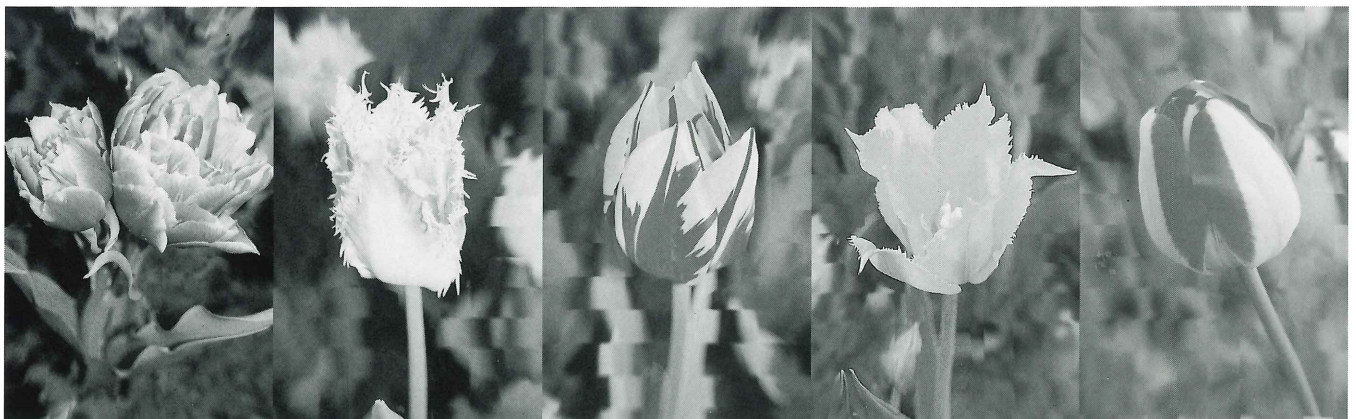


◎年次別出荷状況

年 度	球数(球)	面積(a)	反収(球)
1997/1998	49,775,100	23,431	21,243
1998/1999	48,011,750	22,750	21,104
1999/2000	50,062,500	21,901	22,859
2000/2001	46,275,548	20,267	22,833
2001/2002	41,933,050	18,101	23,166

県内 News

チューリップの
年次別出荷状況
〈富山県〉



チューリップ四季彩館
からのお知らせ

○夏季特別企画展

『風の画家 中島潔の世界展』

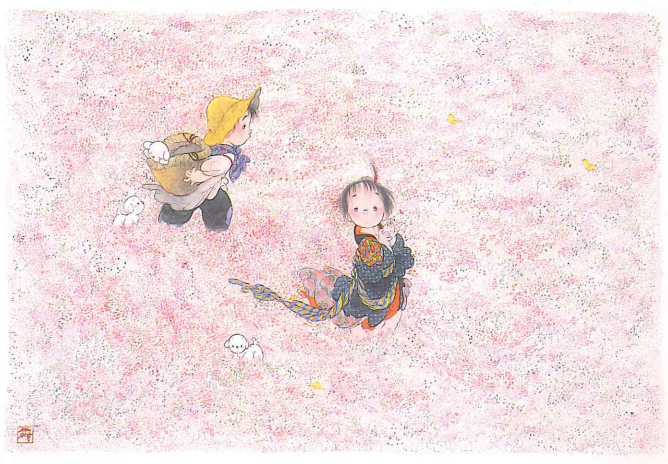
●と き：8月8日(金)～8月31日(日)

～故郷の花は夢のいろ～

第一会場：チューリップ四季彩館

～日本のこころ故郷のこころ～

第二会場：砺波市美術館



▲「春の夢」



▲「夏少女」



チューリップ四季彩館
TONAMI TULIP GALLERY

2003年5月発行
財団法人花と緑の財団 〒939-1381 富山県砺波市中村100番地の1
TEL 0763-33-7716・FAX 0763-33-0090
URL <http://www.city.tonami.toyama.jp/>
<http://www.tulipfair.or.jp/>